⑶ 伝統行事

古来から，京都は物資や情報が集中する都であるばかりでなく，山紫水明と言われる自然に恵まれたまちでもあった。そのような条件が，京都の人々の情緒豊かな感性を育み，文学や芸能，茶道や華道などの文化を開花させ，産業を発展させた。

こうした文化や産業は，祇園祭をはじめとする，葵祭，時代祭の京都三大祭や大念仏狂言などの様々な伝統行事によって，衣装や道具，劇などとして目に見える形で表わされている。

また，伝統行事の中には，寺社仏閣で行われる祭礼行事のほかに，地域の担い手たちによる保存会や町内会で維持されている行事なども多くある。その一つとして地蔵盆は，歴史と共に蓄積された文化で，暮らしの中に息づいた地域の身近な伝統行事と言え，夏の終わりを告げる風物詩として継承されている。

その他にも，やすらい祭や京都五山送り火，鞍馬（くらま）の火祭など季節の風物詩となる伝統行事が一年を通じて市内各地で行われており，伝統行事で季節の移り変わりを知ることができるのが京都である。

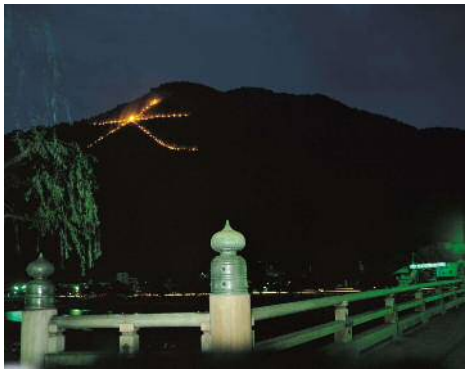

写真1-27　京都五山送り火

⑷ 京都の名所

京都は，日本史の主要舞台として，世界的にも稀有な　１２００年という悠久の歴史を重ねてきた。そのため京都には，現在もまちの至る所に様々な時代の歴史遺産や文化が重層的に存在している。これらの文化や歴史は人々を惹きつけ，江戸時代には，滝沢馬琴，司馬江漢らをはじめ数多くの人々が京都へ観光に訪れ，滞在し，あちこちの名所や旧跡を訪れ，あるいは社参や仏参を行って都の四季を楽しんだ。また，この時代に出版された当時の観光本である『都名所図会（みやこめいしょずえ）』が大ベストセラーとなるなど，京都は，日本を代表する文化・産業・観光の拠点都市として発展してきた。

明治以降，京都では，都市の伝統を持続させつつ，「京都策」と呼ばれる勧業政策や市街地整備を含む総合的な都市政策を進め，近代的観光都市としての姿を構築してきた。

第二次世界大戦後，戦時中に廃止されていた観光課（昭和５年発足）を昭和２２年（１９４７）に復活させるとともに，昭和　２５年には，国際文化観光都市の建設を目指した「京都国際文化観光都市建設法」が制定されほか，昭和３６年には，社団法人京都市観光協会を設立し，「京の冬の旅」をはじめとする数多くの先駆的な取組を進めるなど，京都は日本を代表する国際文化観光都市として，常に日本の観光をリードしてきた。

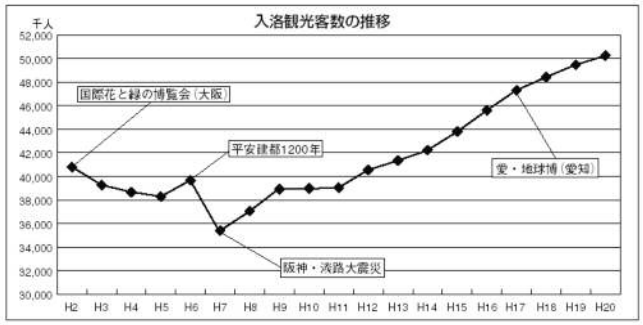

図1-17　入洛観光者数の推移

出典　「京都市観光調査年報　平成２０年（２００８年）」

平成１２年（２０００）には「観光客５０００万人構想」を宣言し，観光振興を都市経営上の最重要政策の一つに位置付け，京都ならではの観光資源の創出や発掘，きめ細やかな情報発信，国内外からの観光客の受入環境整備など，多彩な施策を展開してきた。その結果，平成２０年の入洛観光客数は５０２１万人を数え，目標年次である平成２２年より２年早く，念願の「５０００万人観光都市を実現するに至った。

京都の観光地の中で多くの観光客が訪れるのは清水寺や，嵐山，金閣寺，銀閣寺，南禅寺となっている。

しかし，近年では，観光の形態が単なる名所・旧跡を訪ねるものから，参加・体験型にシフトしてきており，西陣織・京友禅・草木染めなどの染織体験や，京焼・清水焼などの陶芸体験，茶道・華道などの作法体験，能・狂言・歌舞伎などの芸能体験，京菓子の手作り体験など，京都の文化・歴史にふれることによって，京都を味わったり，学んだりする人々も増えてきている。

京都観光のオンシーズンは桜の時期である３月～４月，ゴールデンウィークがある５月，紅葉の時期である１０月～１１月であり，特に春と秋に集中している。